

第32回会長の時間 ロータリーの広報活動について 3月23日

皆様こんばんは。クラブフォーラムに因んで、本日はロータリーの広報活動についてお話ししたいと思います。歴史的にみると、ロータリークラブは長らく広報活動に消極的で、善いおこないを自慢げに話すのは美徳ではないという考えが根底にあり、言葉よりも行動で示すべきだといわれてきました。1923年の決議23-34の中にある、「ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に、宣伝をその主たる目標としてはならない、その奉仕を行うことによって、宣伝しようとか名声を得ようと追い求めるのではなく、ただ奉仕する機会を求めるべきである」という声明は、ロータリークラブは宣伝と広報活動をする努力を避けるべきであるという意味に解釈されていました。実際は、この決議ではその後さらに述べていて、「ロータリーの影響力を拡大する方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである」と書かれています。また、ポール・ハリスも「自分だけで大勢の人に影響を与えることは難しい。理解を得るためには、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外の人を含めた多くの人々に働きかけることが重要だ」と述べ、広報に対して肯定的な発言をしています。もちろん、ロータリーの広報は宣伝ではありません。クラブ自体がそしてクラブ会員、ロータリアン一人一人が、『ロータリーを知り、ロータリーを知ってもらう』ことを実行することが真の広報だと思います。

さて、ロータリー章典には、ロータリーの広報の目的はロータリーへの理解、そのプログラムへの協力・支援を促進することだと書かれています。ロータリーの奉仕を広げるためには、優れた広報、好ましい広報、肯定的イメージこそが、ロータリーにとって重要だとも謳ってあります。さらにRIのウェブサイトでは、ロータリーのよいイメージを作ることは、ロータリアン個々の責務であり、地元と世界規模の両方で活動を行う必要があると発信しています。立派に遂行された奉仕プロジェクトは、ロータリーの一番優れた広報メッセージだと考えられますので、ロータリークラブがその達成した奉仕プロジェクトについて一般の人々に知らせるためにあらゆる努力をすることは極めて大切です。

ロータリークラブと地区が効果的な広報活動を考慮するに際しては、ロータリアンがロータリーのことを考えるとき、私たちの高尚な目標と動機のことを考えるということも重要です。しかし世間人は、ロータリークラブについて考える際には、私たちの崇高な考えやプロセスには関心がなく、実行した活動内容や奉仕の結果しか見ていないのが現状です。

各クラブにおけるロータリーの広報には、3つあり、1つ目は対外的な広報、

すなわち、地域、世界のロータリアン以外の人々への広報です。2つ目は他クラブのロータリアンへの広報です。そして、3つ目はクラブ内のロータリアンへの広報です。広報を実行する方法としては、宇部日報などの新聞、FM きららなどのラジオ、地元のテレビなどのマスメディアを通じての広報、市民フォーラムなどのクラブ独自の広報イベント、福祉祭りなど地域の祭典などへの参加による広報、クラブホームページなどのインターネットを使った広報などがありますが、最も大事な広報は、クラブのロータリアン一人一人が自らロータリーを地域社会に正しく伝えることです。信頼の置けるロータリアンがロータリーを理解し、自クラブをよく知り、それを皆に正しく伝えるのが最も効果的な広報といえます。また、広報とクラブのプロジェクトについては、いずれのロータリークラブも毎年主要な社会奉仕活動の一つ提唱することが望まれています。我がクラブの行っている彫刻清掃や街頭清掃、24時間テレビの街頭募金などがこれに入ります。遂行されたプロジェクトについて、これを一般の人々に広く知らせる活動は、ロータリー広報にとって不可欠であると手続要覧に記載されています。私たちロータリアンは、行動規範に従って行動し、地域の人から「あのような人になりたい」と思われるような人になることが最も有効な広報活動になるかも知れません。また、それが会員増強に結びつけばなおさら良いことだと思います。今日はクラブフォーラムで、ロータリーの公共イメージについて話し合いたいと思います。ご静聴ありがとうございました。これで会長の時間を終わります。